『日本臨床救急医学会雑誌』投稿規定

2010 年 6 月　一部改訂
2012 年 8 月　一部改訂
2012 年 12 月　一部改訂
2016 年 6 月　一部改訂
2017 年 6 月　一部改訂
2019 年 10 月　一部改訂
2021 年 9 月　一部改訂
2022 年 8 月　一部改訂
2023 年 9 月　一部改定
2024 年 9 月　一部改定
2025 年 12 月　一部改定
2026 年 10 月　一部改定

日本臨床救急医学会雑誌（略名：日臨救急医会誌）は日本臨床救急医学会の機関誌であり，臨床救急医学の進歩と発展に寄与することを目的とするものである。本誌の英文名は“Journal of Japanese Society for Emergency Medicine”（略名：J Jpn Soc Emer Med；JJSEM）とする。

☆投稿内容　投稿論文は臨床救急医療の進歩に寄与する創意に富んだもので，二重投稿および同時投稿でない旨を明記した誓約書（書式 A）に著者全員が署名，捺印して添付すること。すなわち本誌への投稿論文は，原則として他誌に掲載されていないものに限り，また同時に他誌に投稿することはできない。ただし，同時掲載や，外国語で他誌に掲載されたものを日本語に変えて本誌に余剰出版（重複出版）することが公衆衛生に利すると考えられる場合はこの限りではないので，投稿時にその旨を必ず伝えるとともに，掲載論文のコピーまたは別冊を添付すること。掲載の是非は編集委員会で判断するが，掲載する場合，掲載誌を明記したうえで論文の種別は「資料」とする。日本語もしくは英語での投稿を受け付ける。日本語の場合は，和文抄録とともになるべく英文抄録も付すこと。英語での投稿や英文抄録を提出する場合は原則として English native speaker の校閲を受けること。英語の場合は英文抄録とともに和文抄録を付すこと。

☆投稿資格　筆頭著者は本学会の個人会員に限る。著者の人数は 10 名以内とする。入会手続きは学会事務所まで問い合わせのこと。

日本臨床救急医学会事務所：〒 164-0001　東京都中野区中野 2-2-3
へるす出版事業部内
TEL　03-3380-2704　FAX　03-3380-8627

☆論文の受付　論文の様式 1）～ 9），原稿の書き方 1）～ 13）を大幅に逸脱するものは受け付けない。

☆論文の採否　投稿論文の採否は編集委員を含む 3 名で査読後，編集委員会の審査によって決定し，その日をもって受理年月日とする。

☆論文の様式
1）投稿論文は原著，総説，調査・報告，症例・事例報告，研究速報，Letter to editor，資料とし，その種目別を明記する。
2）原著は，研究が独創的で新知見を含み，論文の体裁（目的・対象と方法・結果・考察）が整っており，論旨が明快で，かつ学術上の価値があると認められ，未発表のものとする。
3）総説は，特定のテーマについて広く文献や情報を考察し，その内容を包括的に解説したものとする。

4）調査・報告は，独自に行った調査等の結果をまとめ，報告ならびに解説したものとする。
5）症例・事例報告は，単独または複数の珍しい症例や事例の経過をまとめ，考察を加えたものとする。
6）研究速報は，速やかに掲載することを目的としたもので，様式は原著に準ずる。
7）Letter to editor は，掲載された論文に対する意見ならびにその他の意見欄で，編集委員会で掲載の可否を決定する。
8）資料は，特定のテーマに関する提案・提言，論文紹介等で，臨床または研究の参考となるものとする。本誌での余剰出版に該当する論文も，この種別とする。
9）原著，総説，調査・報告，症例・事例報告の様式は，1 頁目に和文の題名・著者名・所属施設名，英文の題名・著者名・所属施設名，2 頁目に和文要旨，索引用語，3 頁目から本文，文献，図表（和文）の順に記述する。

☆原稿の書き方
1）原稿は，PC の文書作成ソフト（Microsoft® word など）にて作成，A4 判用紙に横書きで，40 字× 30 行でページ設定する。
2）現代かな遣いに従い，医学用語を除き常用漢字を用いる。
3）度量衡は CGS 単位に限る。
4）統計処理を行った時は，統計学的検定法を明記する。
5）外国人名などの欧文文字は原語を用い，固有名詞，ドイツ語名詞の頭文字は大文字とする。
6）薬品名は，原則として日本語の一般名を用いる。商品名を用いる場合は，一般名の後の括弧内に記入する。
7）しばしば繰り返される語は略語を用いてよいが，初出の時は完全な用語を用い，以下に略語を使用することを明記する。
（例）病院到着時心肺停止（cardiopulmonary arrest on arrival，以下 CPAOA と略す）
8）図，表の引用は該当文章の末尾とする。
9）原著の本文は，はじめに，目的，方法，結果，考察，結論の順に記述する。
10）症例・事例報告の本文は，はじめに，症例，考察，（結論）の順に記述する。
11）論文の本文には必ず頁数を付し，各頁ごとに行番号を付す。
12）用語は日本救急医学会の用語集を参考とする。
13）ランニングタイトルは 20 字以内とする。

☆和 文 要 旨 原著，総説，調査・報告，症例・事例報告には 400 字以内の和文要旨をつける。研究速報には不要。原著の要旨は抽象的な記述ではなく，目的，方法，結果，結論の順で具体的な数字，内容を簡明にまとめる。

☆索 引 用 語 原則として日本語とし，原著，総説，調査・報告は 5 個以内，症例・事例報告および研究速報は 3 個以内とする。索引から目的の論文を確実に検索できるようなものとする。
（例）気管挿管，急性心筋梗塞，神経ガス，救急救命士

☆字 数 制 限
1）原著，総説，調査・報告は，題名・著者名・所属施設名，要旨，本文，文献と図表を含めて 16,000 字（英語は 8,000 words）以内とする。字数換算は題名・著者名・所属施設名の和英で 400 字相当，和文要旨が 400 字とする。図表は縦 5 cm ×横 7 cm に縮小印刷が可能なもの 1 点を 400 字相当と換算する。
2）症例・事例報告は，題名・著者名・所属施設名，要旨，本文，文献と図表を含めて 8,000 字（英語は 4,000 words）以内とする。字数換算は 1）に同じ。
3）研究速報は，題名・著者名・所属施設名，本文，文献と図表を含めて 2,000 字（英語は 1,000 words）以内とする。字数換算は題名・著者名・所属施設名の和英で 400 字相当とし，他は 1）と同じ。
4）Letter to editor は，投稿者名，所属，本文，文献と図表を含めて 2,000 字（英語は 1,000 words）以内とする。掲載された論文に対する意見である場合には，対象論文名（掲載年；巻：頁－頁）を記載する。字数換算は投稿者名・所属・対象論文名で 400 字相当とし，他は

1）と同じ。

☆文　　献　1）文献は本文中に上肩付した引用番号順に配列し，原著と調査・報告は 20 編以内，総説は 40 編以内，症例・事例報告は 10 編以内，研究速報，Letter to editor は 3 編以内とする。
2）著者は 3 名までは明記し，それ以上は「他」または「et al」とする。
3）雑誌名略記は医学中央雑誌刊行会・医学中央雑誌収載誌目録略名表および Index Medicus に準ずる。
4）文献が雑誌の場合は，DOI コードを記載するか，タイトル・著者・要旨を含むページ（通常最初のページ）のみの PDF を添付する。その PDF には引用番号を付する。
5）文献の記載順序

イ．雑誌：引用番号）著者名：題名．略誌名　発刊西暦年号；巻：頁—頁．

1）桑原義之，片岡誠，正岡昭，他：門脈ガス血症を伴った急性上腸間膜動脈閉塞症の 1 救命例．日消外会誌 1992；25：3007-11.
2）木村浩：救命講習における動機づけの有用性．プレホスピタル・ケア 1996；9：51-6.
3）Bone RC, Sprung CL, Sibbald WJ, et al: Definitions for sepsis and organ failure. Crit Care Med 1992; 20: 724-6.

ロ．単行本 a：引用番号）著者名：書名．（巻）．（版）．発行所，発行地，西暦年号，p 頁—頁．
（　）内は必要があるときのみ記載

4）蜂屋順一，平敷淳子：腹部超音波診断テスト．文光堂，東京，1980，p 1-7.
5）佐藤禮子：看護過程における計画立案（看護 MOOK・8）．金原出版，東京，1989，p 110-8.

単行本 b：引用番号）著者名：分担執筆項目題名．編者名．書名．（巻）．（版）．発行所，発行地，西暦年号，p 頁—頁．（　）内は必要があるときのみ記載

6）中村紀夫：テント下の解剖．中村紀夫編．頭部外傷．文光堂，東京，1986，p 495-500.
7）Falk JL, Rackow EC, Weil MH: Colloid and Crystalloid fluid resuscitation. In: Shoemaker WC, Ayres SA, Grenvik A, et al eds. Textbook of Critical Care. Saunders, Philadelphia, 1989, p1055-73.

ハ．HP サイト：引用番号）サイト機関：ページ名．（改行）
URL（最終アクセス日）

8）厚生労働省：集中治療室（ICU）における安全管理について．（報告書）
http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/s0401-1.html（最終アクセス：2017.5.27）
9）Weingart S : Rapid ultrasound for shock and hypotension.
http://emcrit.org/rush-exam/original-rush-article/ (Accessed: 2017.6.15)

☆図（写真），表　1）図，表は 1 点を字数換算で 400 字相当とする。
2）図，表の内容，説明文はすべて日本語とする。
3）図の大きさは原則として A4 判におさまるものとし，黒色で明確に描く。
図，表は A4 判用紙 1 枚に 1 点とし，図表の番号，タイトル，説明文を付す。

☆電 子 付 録　電子付録は本誌に含まれず，オンライン上のみで公開される本論文の要旨や主張をさらに補強する，重要ではあるが付随的情報を指す。電子付録には分量等の関係で本文には含めることのできなかったデータセットや映像，音声，画像，3D 構造体，その他のマルチメディアファイル等を含めることが可能である。電子付録を投稿する場合には本文中に引用して，それを簡潔に説明する必要がある。データは著者が提供した媒体の形式そのままで公開され，査読の対象とはなるが出版前の校正等はなされないので著者は最終的に公開したい形式でファイルを投稿する必要がある。
①電子付録に掲載される図，表，文，データは以下のように番号を振って投稿すること。
付録図 1　○○○○，付録図 2　○○○○，付録表 1　○○○○○，付録表 2　○○○○
付録文 1　○○○○，付録文 2　○○○○，付録データ 1　○○○○，付録データ 2　○○○○
②電子付録が論文に含まれる場合，本文の参考文献後に電子付録があることを文章で示すこと。
③電子付録の容量はファイル 1 件につき 50MB を上限とする。

☆COI(利益相反)の開示　初回投稿時，全著者の投稿内容に関連する企業や営利を目的とした団体からの資金援助等の利益相反関係を開示しなければならない。
申告すべき利益基準については当会「臨床救急にかかる研究のCOI（利益相反）に関する細則」第５条申告すべき利益基準について を確認し，全著者の「投稿時COI（利益相反）申告書」（書式B）の提出をもって申告すること。併せて，本文の末尾（文献の前）にも全著者の利益相反関係の有無を明記する。COIがない場合においても，「本稿のすべての著者には規定されたCOIはない」等と明記すること。

☆校　　正　掲載直前の最終校正は著者校正とするが，その際，大幅な追加，削除は認めない。

☆特 別 料 金
1）規定字数までは無料とし，超過した場合は刷り上がり１頁につき10,000円を著者負担とする。
2）別刷は希望者に対し有料で作成する。別刷の注文は著者校正時に行う。
3）トレーシングを必要とする場合および特別の印刷技術を要する場合（カラーを含む）の実費は著者負担とする。

☆原稿の投稿　投稿論文は「原稿」,「雑誌文献のPDF」,「誓約書」,「投稿時COI（利益相反）申告書」，を揃え，オンライン投稿・査読システム「Editorial Manager®」から投稿すること。
「誓約書」（書式A),「投稿時COI（利益相反）申告書」（書式B）は学会雑誌の投稿規定ページに掲載されたもの，または日本臨床救急医学会ホームページ「学会雑誌投稿規定」よりダウンロードしたものを使用する。
なお，メールやインターネットが使用できない環境，その他オンライン投稿ができない事情がある者に限り，従来どおりの郵送による投稿も受け付けるものとする。詳細は編集委員会事務局まで問い合わせる。

宛先：〒164-0001 東京都中野区中野2-2-3
へるす出版内
日本臨床救急医学会編集委員会
TEL 03-3384-8155　E-mail jsem@herusu-shuppan.co.jp

☆論文の著作権　本誌に掲載された著作物の著作権は，著者と日本臨床救急医学会の両者が保持するものとする。著作権に関する詳細は，編集委員会に問い合わせる。

☆倫 理 規 定　臨床研究にあたっては，Helsinki人権宣言に基づくこと。また，「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」をはじめとする厚生労働省等の策定する医学研究に関する指針を遵守すること。
①原著論文・研究速報の場合は，所属研究機関あるいは所属施設の倫理委員会ないしそれに準ずる機関の承認を得ていることが必須である。
②調査・報告および資料については，行った倫理的配慮，もしくは倫理的配慮が必要ない旨を本文中に記載する。
③症例報告は，「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針のガイダンス」では他の医療従事者への情報共有を図るため，所属する機関内の症例検討会，機関外の医療従事者同士の勉強会や関係学会，医療従事者向け専門誌等で個別の症例を報告するもので，生命科学・医学系研究に関する倫理指針の適応範囲外とされている。本誌もこの方針を踏襲する。具体的には，9例以下をまとめた症例報告では倫理審査を省略できることとする。
④個人情報保護に基づき，匿名化すること。なお，十分な匿名化が困難な場合には，同意を文書で得ておくこと。これは症例報告でも同様である。
⑤動物を対象とした研究にあたっては，医学生物学的研究に関する国際指針の勧告の趣旨にそったものとし，所属研究機関あるいは所属施設の倫理委員会ないしそれに準ずる機関の承認を得ていること。
なお，倫理審査委員会が設置されていない機関で，自機関のみで実施する観察研究については本学会で倫理審査を受け付ける。審査を希望する場合（学会員に限る），本学会所定の各種申請書

を使って，学会に申請すること。

☆AIの使用　AIに関する基本方針

1）AIは著者になれない。
2）論文内容の最終責任は著者が負う。
3）AI生成内容は著者が必ず確認・修正・検証する。
4）AI生成の引用・事実は必ず原典を確認する。
5）査読者は査読原稿をAIへ入力して査読をしてはならない。

投稿論文にAIを使用した場合は以下の4点について本文の末尾に開示すること。
①使用したAI（モデル名）
②利用範囲（投稿論文内のどの部分で使用したか）
③利用目的（例：論理構成の推敲，文章表現力の向上，誤字脱字修正，など）
④著者が確認・修正し責任を負うこと
以下に例文を示す。

AI使用に関する開示

本論文の作成にあたり，著者らは文章全体の可読性および文法表現の改善を目的としてGPT 5.5（OpenAI）を使用した。AIが生成した内容はすべて著者らが確認・修正・検証を行った。科学的解釈，解析および結論については著者らが行い，本論文の内容については著者らが責任を負う。

☆規定の改正　投稿規定は改正することがある。

☆付　　表

投稿要領 ＼ 論文	原稿枚数など				
	制限字数（図表等すべてを含む）	要旨	索引用語（和文）	文献数	題名・所属・著者名の英文
原著	16,000字以内	和文400字以内	5個以内	20編以内	必要
総説	16,000字以内	和文400字以内	5個以内	40編以内	
調査・報告	16,000字以内	和文400字以内	5個以内	20編以内	
症例・事例報告	8,000字以内	和文400字以内	3個以内	10編以内	
研究速報	2,000字以内	———	3個以内	3編以内	
Letter to editor	2,000字以内	———	———	3編以内	不要

『日本臨床救急医学会雑誌』編集委員会

担当理事　杉田　学
編集委員長　田﨑　修
副編集委員長　田邉　晴山，福島　英賢，眞野　成康
編集委員　安部　隆三，石川　幸司，上村　潤也，大谷　典生，加藤　隆寛，末吉孝一郎，
鈴木　昭夫，壽田　栄輔，関根　和弘，中尾　彰太，中尾　博之，廣瀬　智也，
廣橋　伸之，室谷　卓，樅山　定美，八木　正晴

書式 A

日本臨床救急医学会雑誌
編集委員会　御中

年　　月　　日

誓　約　書

下記投稿論文は，1. その内容が他誌に掲載されたり，あるいは投稿していないことを誓約致します。
2. 他誌（　　）との同時掲載なので，資料として掲載して下さい。
3. 外国誌（　　）に掲載したものの余剰出版（重複出版）なので，資料として掲載して下さい。

（1 ～ 3 のいずれかを○で囲んで下さい）

論文名　：〔原著　総説　調査・報告　症例・事例報告　研究速報　Letter to editor　資料〕
（○で囲んで下さい）

著　　者（著者全員，署名・捺印のこと）：

1. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞　6. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞
2. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞　7. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞
3. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞　8. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞
4. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞　9. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞
5. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞　10. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞

上記に署名した著者は，査読過程において修正された内容を含め，本論文の最終的な内容について責任を負うことに同意します。

筆頭著者の所属施設名：

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

書式 B

日本臨床救急医学会雑誌
編集委員会　御中

投稿時 COI（利益相反）申告書

筆頭著者名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

論文題名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＊論文内容に関係する企業・組織または団体との利益相反状態を，投稿時から遡って 1 年間について記載する。
（共著者を含め，著者全員が各人の利益相反状態について個別に提出する）

項　目	該当の状況	該当のある場合，年度・企業名・金額を記載
1）役員・顧問職等の報酬 1 つの企業・団体から年間 100 万円以上	有・無	
2）株式の利益 1 つの企業から年間 100 万円以上，あるいは当該株式の 5%以上保有	有・無	
3）特許使用料など 1 つにつき年間 100 万円以上	有・無	
4）講演料など 1 つの企業・団体からの年間合計 50 万円以上	有・無	
5）原稿料など 1 つの企業・団体から年間合計 50 万円以上	有・無	
6）研究費・助成金などの総額 企業・団体から 1 つの臨床研究に支払われた年間総額が 100 万円以上	有・無	
7）奨学（奨励）寄付などの総額 1 つの企業・団体から，1 名の研究代表者に支払われた年間総額が 100 万円以上	有・無	
8）企業が提供する寄付講座に所属 所属している場合は企業等から提供されている資金 3 年間分を呈示	有・無	
9）その他（旅費・贈答品などの受領） 1 つの企業・団体から総額年間 5 万円以上	有・無	

なお，金額は企業等が提供した額であり，税金や研究機関がとる手数料など全てを含む。

（申告日）　　年　　月　　日

著者氏名（署名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　㊞